

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500650
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム浜っ子
所在地	愛媛県伊予郡松前町浜858番地
自己評価作成日	平成 24年 6月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 8 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>近くに中学校や公園、大型スーパーなどがあり、気軽に外出できる。 町内のボランティアの方が定期的に訪問し、たいこやおどりを披露してくれ、楽しい時間が過ごせる。 家族や友人、知人が訪問できる雰囲気作りに努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に基づき、利用者が家族的な雰囲気の中で暮らしていけるよう心がけている。利用者の健康管理や見守りを重視し、小さな変化も見逃さないよう支援している。管理者が率先して研修に参加し職員にも研鑽を促すことで、事業所全体の資質向上を図りより良いサービスに繋げている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム浜っ子

(ユニット名) 浜っ子2F

記入者(管理者)

氏名 清水 みずほ

評価完了日 平成 24年 6月 8日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 基本理念を充分理解し、その気持ちで取り組んでいる。 地域密着を理念に反映させる様に考慮中である。 また、入居の際に説明している。	
			(外部評価) 管理者の交代を機に、運営やケアの拠り所としていることについて職員全員で話し合っって新しい理念を作り、意識付けている。月1回のミーティングで振り返り、職員全員で理念に沿ったケアの実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 催し物を行う時は、役場にお願し、ポスターを貼り事前に呼びかけをし、来所していただくようにしている。 又、地域の催し物にも参加している。 地域のボランティアの方々との交流に努めている。	
			(外部評価) 保育園と合同でクリスマス会を行ったり、秋祭りでは神輿の休憩場所として駐車場を提供している。地域とつながりが持てるよう取り組んでいるが、地域住民との日常的な交流には至っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域貢献があまり出来ていないのが現状である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開き、利用者の近況報告ならびに事業報告をしている。 参加して下さった方々のご意見やアドバイスしていただいたことを参考に、サービス向上に努めている。	会議の内容がマンネリ化しないように、家族や職員等参加メンバーの多様化を図ったり、議題を工夫するなど、会議がより活発な意見交換の場となる取組みに期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議では主に報告や行事予定の説明を行っている。意見交換では、地域包括支援センター職員からアドバイスをもらうことが多く、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の方々、包括支援センターの方々に協力していただき、取り組んでいる。 運営推進会議などで情報交換している。	
			(外部評価) 町職員や地域包括支援センター職員に運営推進会議に出席してもらい情報交換をしている。日頃から、相談等があれば直接出向き助言をもらうなど密な連携をとっている。町主催の研修にも極力参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティングで話し合いをしている。 又、外部の研修に参加をした時は、後日職員全員で勉強会を行っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、ミーティングで話し合い理解を深め共通認識を持っている。研修で得た情報や知識についてはミーティング等を通じて職員間で共有している。車椅子での座位保持に危険があり安全ベルトが必要な場合など、必ず本人や家族の同意を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルにより研修を行い、事例を元に全員で話し合いをしている。 又、利用者の身体の変化に注意し、虐待がないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開催したり、外部の研修に参加し、ミーティングで全職員と共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書・重要事項説明書を詳しく説明し、納得していただいている。 又、不安や疑問点があれば回答し、納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 施設内に意見箱を設置している。 契約時の重要事項説明書に苦情申立先を明記。 年末にアンケートを実施したり、家族会で要望や意見を聞き取っている。 出された意見や要望は、ミーティングで話し合い、運営に反映させ、結果を御家族に報告している。	
			(外部評価) 利用者や家族から何でも言ってもらえるよう、雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望等はミーティングで話し合い、運営に反映している。各ユニットに意見箱を設置しているが、利用されることは殆どない。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日ミーティングをしている。 その際、意見を述べ、反映している。	
			(外部評価) 管理者は、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努め、ミーティングで職員から意見や要望を出してもらったり、個別に意見を聞くように取り組んでいる。出された意見や要望は、十分検討し運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に1度給与の見直しがあり、努力や実績が反映されるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に積極的に参加できるような環境作りをしている。 また、資格を取るよう奨励している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者施設の相互訪問やその際の勉強会等で意見交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 困っている事や要望に耳を傾けて話し合っ不安を取り除き、安心して生活を送れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との面談の時に、不安な事や要望等を聞いて、入所後も連絡が取れる様にして、常に要望等が言いやすい関係を作っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族の要望にしっかりと耳を傾け、職員でカンファレンスを行って、どの様に支援していくかを見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活していく中で、利用者1人1人の個性を知り、出来る事を一緒に行い、より良い関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的に近況を書いた手紙と写真を送らせて頂いている。また、家族会等を通して交流し、より良い関係を築いている。 面会に来られた際には、日頃の様子等報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのあったご近所の方やご友人などが訪ねて来られたら、楽しい時間を過ごして頂ける様な雰囲気作りに努めている。 馴染みのスーパーなどに買い物に行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望を把握し、地域に暮らす馴染みの知人等が訪問してくれるよう働きかけ、関係継続を支援している。訪問してくれた方と一緒におやつを食べるなど、楽しい時間が持てるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションなどを通じ、関わりを持ち、深めている。 また、体調が悪い時など、利用者同士励まし合ったりして支えあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 依頼があれば、協力・相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で利用者とは話をし、話の内容や表情などにより、希望等の把握に努めている。 また、意見を伝えられない利用者などには職員全員で話し合いをしている。	
			(外部評価) 利用者との日々のかかわりの中で声をかけて、希望や意向の把握に努めている。一人ひとりの思いは申し送りや日誌で職員が共有している。利用者の希望にあった自然な暮らしができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時にこれまでの生活歴などを事前に資料等で把握し、それを元に、入所後は観察や会話を通して、今後のケアの参考にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常生活の中で、一人ひとりの健康状態や出来る事と出来ない事の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 年に2度、定期的にケアプランを見直している。 担当者会議を開き、課題を見つけてミーティングで話し合い、家族や医師からの助言を取り入れたケアプランを作成している。 また、変化があった時は、随時変更している。 (外部評価) その人らしく暮らしていけるよう、利用者や家族の意向をふまえ、職員で話し合っ介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に日々の出来事や変化や気持ち等、小さな事でも記録している。その情報は職員間で共有し、ミーティング時に話し合いを行って、実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 1人ひとりの体調や状況の変化の把握に努め、必要なニーズを見極め対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアや役員の協力を頂き、趣味や特技が活かせる環境作りを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホームの隣に病院があり、変わった事があれば受診し ている。また個人のかかりつけ医の訪問診察もしてい ただいている。 専門病院への受診ができるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診ができる よう支援している。母体である病院をかかりつけ医と している利用者は、緊急時も24時間対応ができる体 制となっている。他医院を受診する際に、家族が同行 できないときは介護タクシーを利用できるよう配慮し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活での変化や気づき、わからない事は、相談し て、対処方法を指示してもらっている。 時には訪問していただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 今までの病歴や生活歴、日常生活での気づきなど情報 を提供している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の変化に応じ、話し合いを家族や医師とし、そ れぞれの手助けをしている。 ターミナルケアについて説明し、同意を得ている。 本人・家族の意向に沿って支援している。	
			(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、本人や家族の意向を踏 まえて医師や職員が連携をとっている。安心して納得 した最期を迎えられるように、随時、家族等の意思を 確認しながら支援している。意思確認書の様式も作成 予定である。	重度化した場合や終末期の対応について、職員全員が 共通理解しておくことが望ましい。職員が不安を感じ ることがないように、ミーティングや勉強会を増やし て、体制を整備しておくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の方の指導のもと、救命講習や初期対応の訓練をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の方に来ていただき、昼夜避難訓練を行い、気付いた事など指示していただいている。地域の方の協力が得られるよう努力していきたい。 (外部評価) 年2回の防災訓練では、消防署の協力を得て、避難経路の確認や消火器の使い方などを行っている。地域の協力体制については、運営推進会議を通じて呼びかけているところである。	地域住民の参加や協力を得た避難訓練等をしていくことが望ましい。災害に備えて、食料や飲料水、防寒用品、常備薬等の備蓄の準備に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレの声かけ、オムツ交換や更衣時など、ドアの開閉に気をつけている。 命令語や指示語は使わず、プライバシーを損ねない言葉かけをしている。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳とプライバシーに配慮し、さりげない誘導や声かけに努めている。職員同士で常に確認し合っている。トイレの戸を閉められない利用者に配慮してカーテンを取り付けるなど、改善に向けた取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で、どんな場での動作でも必ず声掛けし、利用者に判断を促している。 できない事があれば手助けしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人ひとりの体調や気分に合わせて1日を過ごしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時や就寝前、その日の天候によって衣服に気を配っている。 起床時には身だしなみを整え、気分よく1日が過ごせるよう心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 偏らない食事を心掛けると同時に、利用者の好むメニューに心配りをし作っている。 又、準備や片付けも職員と一緒にやっている。	
			(外部評価) 献立は利用者の好みを取り入れるようにしている。食事の準備や片付けなど利用者ができることは手伝ってもらおうようにしている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで、食事の時間を楽しめるよう雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日3度の食事量をチェックしている。 水分量は一日を通して確保できるよう支援している。 また、ご自分で食事・水分摂取できない方は、職員が介助して摂取している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事の後に声掛けして、口腔ケアを行っていただいている。 ご自分で出来ない方は、口腔介助して清潔保持を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 毎日排泄チェックをつけて、1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができる様、時間毎に声掛けしている。 尿意・便意があれば、自由にトイレに行ける環境作りをしている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけ不要なおむつ等をしないでトイレで排泄できるよう支援している。失敗した場合も周囲に気付かれないようにするなど、自尊心への配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の排泄チェックにより、1人ひとりの排便記録をつけている。便秘の時は、自然に排便ができるように食事や水分摂取に気をつけたり、体操や運動等行っている。それでも出ない時は医師に指示をもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回、一応曜日を決めて入浴してもらっているが、体調や希望に応じていつでも入浴できるようにしている。入浴が苦手な利用者には声掛けを工夫している。	
			(外部評価) 入浴日を決めて支援しているが、利用者の希望があれば対応できるようにしている。入浴が苦手な利用者には、時間をおいて声かけをしたり、対応する職員が代わるなど工夫している。利用者の心情に配慮し、決して無理強いをしない支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や生活習慣を考え、気持ち良く休息できるように、又、寝具などの清潔を保ち気持ち良く安眠できる様支援している。 居室でいつでも横になれる様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用・用法や用量の全てを把握しきれていない部分はあるが、1人ひとりの薬の処方箋をファイルに閉じて、職員全員が見て分かる様にしている。服薬確認には最新の注意を払っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で役割を見つけたり、楽しみごとを取り入れたレクリエーションを行い、喜んで頂ける様支援している。 また、散歩や野外レクリエーションを行い、気分転換を支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に季節の花を見に出かけたり、近くの公園やスーパーに出掛けている。 また家族と一緒に外出等を行っている。	
			(外部評価) 事業所の周辺を散歩したり買い物に出かけるなど、一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせた日常的な外出ができるよう支援している。回転寿司などの外食や、季節ごとに行楽に出かけるなど、戸外で気分転換を図れるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来る方は、ご自分で管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の要望があれば、本人自ら電話できる様支援している。 手紙等届いた時は、ご本人に渡し、見えにくい時は要望があれば代わりに読んで聞いてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 清潔で居心地の良い生活空間を心掛けている。毎日利用者の各部屋やリビングの掃除をし、トイレ・台所・浴室はこまめに掃除している。室温を見ながら換気を行ったり、眩しくならない様採光にも配慮し、快適な居住空間を心掛けている。</p> <p>(外部評価) 窓からは外の風景がよく見え、すぐ前にある中学校の生徒と挨拶を交わすことができる。共用空間は、日差しをカーテンで細やかに調整し、快適に過ごせるよう配慮されている。日当たりの良いリビングは、利用者が集まって和やかに寛げる憩いの場所になっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングは広く、ソファテーブル・テレビ等を置いてある。利用者同士会話したり、一緒にテレビを見たり、又、読書もしたり、思い思いに過ごしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所時に、今まで使っていた家具や小物等を持参して頂いて、今までの生活に近い環境で過ごして頂くよう配慮している。また不便を感じる所は改善しながら居心地の良い居室を心掛けている。</p> <p>(外部評価) 寝具や家具など利用者の使い慣れたものが持ち込まれ、自宅のような居心地のよい居室となっている。利用者の好みの小物などを持ち込むなど、個性を活かした居室となるよう支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者1人ひとりの安全に留意しながら、趣味や得意な事が出来る様な環境作りに努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500650
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム浜っ子
所在地	愛媛県伊予郡松前町浜858番地
自己評価作成日	平成 24年 6月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 8 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内は広いリビングがあり、入居者さんが体操をしたり、レクリエーションに参加でき、楽しく過ごせるようになっている。
家族会を開催し、家族の意見や要望を参考に、業務に活かしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づき、利用者が家族的な雰囲気の中で暮らしていけるよう心がけている。利用者の健康管理や見守りを重視し、小さな変化も見逃さないよう支援している。管理者が率先して研修に参加し職員にも研鑽を促すことで、事業所全体の資質向上を図りより良いサービスに繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム浜っ子

(ユニット名) 浜っ子3F

記入者(管理者)
氏名 清水 みずほ

評価完了日 平成 24年 6月 11日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者・職員全員、理念に基づき努力している。 また、地域密着を理念に反映させる様に考慮中である。	
			(外部評価) 管理者の交代を機に、運営やケアの拠り所としていることについて職員全員で話し合って新しい理念を作り、意識付けている。月1回のミーティングで振り返り、職員全員で理念に沿ったケアの実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 老人会長、区長、介護相談員を通じて、地域の事業に参加できるようにしている。 イベントがあれば、自由に参加していただけるように、ポスターを役場や公民館に掲示している。	
			(外部評価) 保育園と合同でクリスマス会を行ったり、秋祭りでは神輿の休憩場所として駐車場を提供している。地域とつながりが持てるよう取り組んでいるが、地域住民との日常的な交流には至っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 役場、区長、民生委員、介護相談員の協力を得て、地域の人々との交流が持てるように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度、必ず運営推進会議を行い、利用者の状況報告、事業報告をしている。 意見を取り入れ、サービス向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議では主に報告や行事予定の説明を行っている。意見交換では、地域包括支援センター職員からアドバイスをもらうことが多く、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課、包括支援センターに困難事例を相談し、協力・援助を依頼している。 カンファレンスにも参加している。	
			(外部評価) 町職員や地域包括支援センター職員に運営推進会議に出席してもらい情報交換をしている。日頃から、相談等があれば直接出向き助言をもらうなど密な連携をとっている。町主催の研修にも極力参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵はかけず、自由に出入りできるようにしているが、夜間は安全性の為、玄関は鍵をかけている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、ミーティングで話し合い理解を深め共通認識を持っている。研修で得た情報や知識についてはミーティング等を通じて職員間で共有している。車椅子での座位保持に危険があり安全ベルトが必要な場合など、必ず本人や家族の同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングで職員全員で虐待防止について学び、虐待がないよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開催し、資料をもとに学んでいる。制度を利用する入居者への支援をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、契約書・需要事項説明書を詳しく説明し、納得していただいている。 また、不安や疑問点にも答えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。 サービスに対するアンケートを年1度家族にしている。	
			(外部評価) 利用者や家族から何でも言ってもらえるよう、雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望等はミーティングで話し合い、運営に反映している。各ユニットに意見箱を設置しているが、利用されることは殆どない。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング等において、みんなで話す機会を設けており、その中で意見を述べ、取り上げた意見において、次回より反映される。	
			(外部評価) 管理者は、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努め、ミーティングで職員から意見や要望を出してもらったり、個別に意見を聞くように取り組んでいる。出された意見や要望は、十分検討し運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に1度、給与見直しがあり、努力や実績が反映されるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加できる環境作りをし、他の施設の方々との交流も深めている。 また、資格を積極的に取れるように奨励している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互訪問や役場会議などに参加し、同業者との交流を深めて、サービスの質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 困っていることや不安な事があれば、話し合っって安心した生活ができるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との面談時に不安なことや要望を聞き、いつでも相談にのり、要望が言いやすい関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族との初期面談で要望を聞き、ミーティング時に職員でカンファレンスを行い、どのように支援するか話し合いをしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で1人ひとりの個性を知り、出来ることはしてもらい、出来ないことは手伝って安心して過ごせるよう、より良い関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的に近況を書いた手紙と写真を送っている。また面会に来られた際にも、日頃の様子を伝えている。家族会を開き、家族同士の交流も行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのあった友人や近所の方々が来られていたら、暖かく迎え、楽しく過ごしてもらえそうな雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの希望を把握し、地域に暮らす馴染みの知人等が訪問してくれるよう働きかけ、関係継続を支援している。訪問してくれた方と一緒におやつを食べるなど、楽しい時間が持てるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションなどを通じ、1人ひとり孤立しないよう関わりを持ち、深めている。 また、体調が悪い時など、利用者同士励ましあったりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 依頼があれば、協力・相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で利用者とは話をし、1人ひとりの意思を尊重している。 また意思を伝えられない方は職員同士で話し、意見を出し合っている。	
			(外部評価) 利用者との日々のかかわりの中で声をかけて、希望や意向の把握に努めている。一人ひとりの思いは申し送りや日誌で職員が共有している。利用者の希望にあった自然な暮らしができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時にこれまでの生活経過や家族との話で把握し、入所後は観察や会話の中で今後のケアの参考にしていく。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、それぞれの現状を把握し、残存能力を活かし日々の生活を送っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランを年に2度見直している。 課題を見つけて、ミーティングで話し合い、家族や医師からの助言を取り入れて、ケアプランを作成している。 (外部評価) その人らしく暮らしていけるよう、利用者や家族の意向をふまえ、職員で話し合っ介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人ひとり個別に記録している。 毎日のミーティング時に情報交換し、共有している。 介護計画の見直しについてのカンファレンスも行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の体調、食事量等で、利用者一人ひとりの状態をつかんで対応している。 希望があれば、リハビリや習い事など、外部への参加を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアや役員の協力の下、趣味や特技が活かせる環境作りを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 敷地内に併設された病院へ受診、訪問診察、専門病院 への受診ができるように支援している。 また、かかりつけ医への連絡を密にしている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診ができる よう支援している。母体である病院をかかりつけ医と している利用者は、緊急時も24時間対応ができる体 制となっている。他医院を受診する際に、家族が同行 できないときは介護タクシーを利用できるよう配慮し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 些細なことでも相談し、対処方法などを指示しても らっている。 適切な診察が受けられるよう、協力関係を作ってい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病歴、生活歴などの情報を提供している。 発病時の状況を説明、早期に治療が出来るように協力 している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の意向に沿った支援ができるようにしてい る。看取りの指針を説明し、それに沿った介護を提供 している。 親しい友人、知人などの協力が得られるように努めて いる。	重度化した場合や終末期の対応について、職員全員が 共通理解しておくことが望ましい。職員が不安を感じ ることがないように、ミーティングや勉強会を増やし て、体制を整備しておくことを期待したい。
			(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、本人や家族の意向を踏 まえて医師や職員が連携をとっている。安心して納得 した最期を迎えられるように、随時、家族等の意思を 確認しながら支援している。意思確認書の様式も作成 予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時のマニュアルがあり、定期的に研修している。 消防署の職員による講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の方々に来てもらい、防火訓練を行っている。 地域の非難訓練に参加できるようにしている。 (外部評価) 年2回の防災訓練では、消防署の協力を得て、避難経路の確認や消火器の使い方などを行っている。地域の協力体制については、運営推進会議を通じて呼びかけているところである。	地域住民の参加や協力を得た避難訓練等をしていくことが望ましい。災害に備えて、食料や飲料水、防寒用品、常備薬等の備蓄の準備に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄の声かけ、オムツ交換時の部屋のドアの開閉に気をつけている。 気持ちを害する言葉などを使わないよう職員間で話し合い、共有している。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳とプライバシーに配慮し、さりげない誘導や声かけに努めている。職員同士で常に確認し合っている。トイレの戸を閉められない利用者に配慮してカーテンを取り付けるなど、改善に向けた取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 好きな食べ物や好みの洋服、見たいテレビを選択できる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活において、時間にとらわれず、1人ひとりが自分のペースで過ごせるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服や髪型などアドバイスをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配膳、片付けなど一緒にしている。 おやつ作りには、全員参加できるものを用意している。	
			(外部評価) 献立は利用者の好みを取り入れるようにしている。食事の準備や片付けなど利用者ができることは手伝ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで、食事の時間を楽しめるよう雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、食事量をチェックし、1人ひとり記録している。水分は、ティータイムなどを設け、摂取していただいている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛けをしている。 ご自分でケアが困難な方は、介助で口腔ケアし、入れ歯洗浄も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間帯を決め、トイレ声掛けをし、誘導してトイレでの排泄を支援している。 トイレで排泄が出来ない利用者は、居室に誘導し介助している。自由にトイレに行ける環境作りに努めている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけ不要なおむつ等をしないでトイレで排泄できるよう支援している。失敗した場合も周囲に気付かれないようにするなど、自尊心への配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日、利用者全員の排泄チェック表をつけている。 極力便秘しないように食べ物など心掛けているが、それでも出にくい場合は、主治医に相談し、便秘薬を処方してもらい服薬している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1人ひとり入浴日を決め、入浴していただいている。 決められた曜日以外でも、希望すればいつでも入浴できる。	
			(外部評価) 入浴日を決めて支援しているが、利用者の希望があれば対応できるようにしている。入浴が苦手な利用者には、時間をおいて声かけをしたり、対応する職員が代わるなど工夫している。利用者の心情に配慮し、決して無理強いをしない支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その人の体調を優先し、援助している。 なじみの布団や枕が使えるように、安心して睡眠が取れる様に支援している。 好きな時に部屋で休めるように気配りしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者全員の薬の副作用、用法等、正直、すべて把握しきれていない部分はあるが、全員の処方箋を1つのファイルに閉じ、職員全員いつでも見れるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活での役割を見つけたり、趣味を活かせるレクレーションをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩に同行し、安全に外出できるよう支援している。季節ごとに行楽・遠出などを計画し、実行している。	
			(外部評価) 事業所の周辺を散歩したり買い物に出かけるなど、一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせた日常的な外出ができるよう支援している。回転寿司などの外食や、季節ごとに行楽に出かけるなど、戸外で気分転換を図れるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる人は、ご自分で管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があれば対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有の場を清潔に保ち、くつろげる空間作りをしている。 季節の花や四季がわかる飾り付けをしている。	
			(外部評価) 窓からは外の風景がよく見え、すぐ前にある中学校の生徒と挨拶を交わすことができる。共用空間は、日差しをカーテンで細やかに調整し、快適に過ごせるよう配慮されている。日当たりの良いリビングは、利用者が集まって和やかに寛げる憩いの場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有スペースで孤立しないよう、利用者同士の共通の話題を提供したり、居室で過ごせる時間をもてるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に自宅で使っていた食器・家具など家庭と変わらない環境作りを提供している。	
			(外部評価) 寝具や家具など利用者の使い慣れたものが持ち込まれ、自宅のような居心地のよい居室となっている。利用者の好みの小物などを持ち込むなど、個性を活かした居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 1人ひとりの能力に応じた環境作りを心がけ、障害物などは排除し、転倒防止に努めている。	